



夏休みの思い出アルバム



水の週間にウナギとカニを放流

8月1日～7日の「第33回全国水の週間」にちなんでウナギとカニの放流が8月3日、志佐川で行われました。

今回で6回目となるウナギとカニの放流は、市上下水道課が平成16年度から実施している水の大切さなどの理解を深める親水活動の一環として行われたものです。

この日は、志佐小学校と上志佐小学校の児童、九州電力と電源開発の社員、ボランティアグループ「川西会」など約50人が参加。ウナギ約300匹とモクズガニ約400匹を放流し、きれいな志佐川を願いました。



頑張れ！もっと引っ張れ！

— 夏休み恒例 カブトムシ綱引き大会 —

夏休み恒例行事のカブトムシ綱引き大会（今福公民館主催）が8月5日、今福公民館で開催されました。

今年は、小学生26人が自慢のカブトムシを持ち寄って参加し、今福町長寿連合会（川久保孟彦会長）の会員約10人が審判を務めました。

直径80[㍉]の土俵の上で、2匹のカブトムシの角にひもを結びつけ、土俵の板をドンドンとたたきながら、どちらが引く力が強いかを競いました。

結果は田中佑希奈さん（今福・人柱、今福小3年）が優勝。田中さんは「今年で3回目の参加です。カブトムシはおじいちゃんが山で捕ってきてくれました。1番になれてよかったです。また来年も出場したいです」と話しました。

またこの日は、クワガタムシ美虫コンテストも行われ、水田蓮君（調川・江口2、調川小3年）が優勝しました。



豆力士が熱戦 — 千燈籠奉納相撲大会 —

郭公尾地区の伝統行事千燈籠奉納相撲大会が8月17日、御堂様前広場で行われました。

郭公尾自治会（立石次男区長）が、地域住民の親ぼくと子どもたちの健全育成を願い毎年実施しています。

土俵上では、地元の園児・小中学生など約10人の豆力士たちが熱の入った取組を展開。押し出しなどの技が決まるたびに集まった観客から歓声が上がっていました。

取組が終わると子どもたちや観客に、1年間の健康を願って、地区住民の手で作られた「力飯ちからめし」と呼ばれる大きなおむすびが振る舞われました。

星鹿じゃんがら・牟田じゃんがら —お墓たいて無病息災—

無病息災や五穀豊穡を願う盆の行事「じゃんがら」が8月15日、星鹿地区と牟田地区で行われました。

星鹿地区の「星鹿じゃんがら」では、法被姿の子どもや大人約50人が地区一帯を練り歩き、僧の墓



「星鹿じゃんがら」

とされる石塚や浄土寺境内で長さ約20cmの「大のぼり」や子ども用の「小のぼり」を地面に打ち付け、豊漁や無病息災を祈願しました。

牟田地区の「牟田じゃんがら」には地元住民や帰省した親子など約50人が参加。「御厨徳」の墓とされる場所で、子どもたちがのぼりで墓を突いて、豊作や無病息災を祈願しました。



「牟田じゃんがら」

鷹島町と福島町で国内交流

●ホークス交流事業

7月26日から30日にかけて北海道鷹栖町と本市の児童が14回目になるホークス交流を行いました。

この事業は、夏休みに鷹栖町の児童が本市を訪れ、冬休みに本市の児童が鷹栖町を訪問し、互いの環境の違いや地域文化の違いを体験し、交流を図ることを目的に行われています。

今回は梅雨明け前で、真夏の日差しや真っ青な海も体験



できませんでしたが、元寇の史跡を巡ったり、海水浴、モンゴル村ゲル宿泊、松浦火力発電所見学などを体験し、地域の人々や、家族とのつながりを深く感じる交流となりました。



—ホークス交流と三福島交流—

●三福島町交流生徒学習交流事業

8月7日から10日かけて、長野県木曾町と本市の生徒が三福島町生徒学習交流を行いました。

この事業は、北海道福島町、長野県木曾町、本市の間で行われている中学生を対象とした交流事業で、広い視野と豊かな郷土愛を持つ人材の育成を目的として行われています。今年は夏に木曾町の中学生が本市を訪問し、冬には、本市の中学生を木曾町と北海道福島町へ派遣する予定です。

今回は、木曾町の6人の生徒が、福島町の家庭にホームステイし、志佐中学校訪問や、魚釣り、市内見学などをして交流を深めました。

